

平成 30 年 6 月 20 日現在

機関番号：37201

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26301039

研究課題名(和文) EU諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの研究 地域と協働する学校

研究課題名(英文) An investigation of school-based comprehensive health education curriculum in EU and other counties: Schools working together with communities

研究代表者

赤星 まゆみ (Akahoshi, Mayumi)

西九州大学・子ども学部・教授

研究者番号：50150975

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：今日、高度情報通信化や超都市化現象等によって子どもの生活環境は著しく変化し、子どもの育つ環境の見直しと新たな支援環境の創出が緊要となっている。そこで本研究では、教育と健康の密接な関連に注目し、学校における学習や教育経験を通して子どもの健康と教育の結果を高める学校全体のアプローチとして近年EU諸国等で積極的に展開されてきた「学校におけるヘルスプロモーション」(学校基盤の包括的健康教育)について、カリキュラムの見地からその教育政策と実施状況及び実験的実践例を明らかにするため、EU諸国等の6カ国に関する学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの構造と実践に関する比較検討を行った。

研究成果の概要(英文)：With the development of high-speed information communications technology and high levels of urbanization, the living environment in which children grow up today has changed dramatically compared to even three decades ago. Given this situation, there is an urgent need to create new support structures for children and young people. This study focused on education and health, and sought to understand how schools in Europe and Canada are implementing a 'whole school approach' to health promotion. We carried out field work in six countries in schools representing three linguistic cultural heritages: French, English and German. We investigated how school-based health education and health promotion is framed in policy in each country, and how it is delivered in schools through formal curriculum and a settings approach. We were able to map out the differences and similarities in approaches as well as identify on-going challenges.

研究分野：教育学

キーワード：教育学 カリキュラム 教育政策 ヘルスプロモーション 教育実践 学校と地域の協働 ウェルビーイング 国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

高度情報通信化や超都市化現象などの進展によって現代の子どもの生活環境は一変した。医療や科学技術の進歩等による乳幼児死亡率の激減や高い教育水準の実現の一方、子どもを取り巻く状況は問題が多い。近年、ネットいじめなどの様々なハラスメントの深刻さや子どもの自殺などは世界共通の現象である。子どもの育つ環境は大きな転換点にあり、従来とは異なる次元から子どもの環境を見直し、新たな支援環境を創出することが急務となっている。

この転換点にあって、1986年のオタワ憲章で示されたヘルスプロモーションの理念は、学校教育の場においても重要性を増している。学校におけるヘルスプロモーションは、健康教育よりも広い概念をもつ総合的包括的取組である。つまり「学校における学習や教育経験を通して子どもの健康と教育の結果を高める学校全体のアプローチ」を指す。このアプローチが教育面でも健康面でもよい成果をもたらすという報告は世界的に多数あり、健康は学習意欲と学力の向上をもたらし、学校に通っている子どもはより良好な健康に恵まれる機会が得られることが明らかにされている。すなわち、教育と健康は密接に関連し、学校における積極的なヘルスプロモーションは教育面と健康面の両方を向上させる（たとえば、イギリス政府の政策：The Healthy Child Programme, 2009年）。このための投資は費用対効果の点から正当化されている（WHO）。しかも健康問題は子どもの社会的文化的背景と関連し、貧困問題（社会的格差）と重なった、健康格差問題として現れる。そこで、子どもたちが人生の初期を送る学校での教育（生涯を見通した教育の初期教育）が、生涯を見通した健康のために、様々な困難や障害への予防（safeguarding）すなわち、健康的で、安全・非暴力的な（いじめ等のハラスメントや体罰等がない）学校環境づくりの役割を發揮すると期待される。こうして教育の領域と健康の領域の双方が密接に連携して、子どもの健康・幸福（well-being）を実現する新たな学校教育のあり方が模索され、新しい学校像の更新（イノベーション）が恒常的に進行している。つまり、健康増進に努める学校は「楽しく幸せな学校」を追求するようになったと言ってもよい。

2. 研究の目的

教育と健康は密接に関連する。EU諸国等では、近年、学校における学習や教育経験を通して子どもの健康と教育の結果を高める学校全体のアプローチ、「学校におけるヘルスプロモーション」を積極的に展開するようになった。ここには、カリキュラムを「学校教育における子どもの経験の総体」と広義にとらえて、子どもの健康格差の減少を果たす学校役割への期待がある。

本研究は、この観点からフランス・イギリス・ドイツ等のEU諸国とヘルスプロモーションの先進国であるカナダ・スイスについて学校基盤の包括的健康教育の動向を探ることを目的とする。そのため、国レベル・州などの地方レベルの学校カリキュラムの方針、学校レベルの先導的・実験的な実践、とくに学校を基盤とした地域と協働する取組・プログラム開発などの実態を明らかにする。また、優れた実践例の収集・分析を行い、子どもの健康・幸福を実現する新しい学校像を探る。

3. 研究の方法

1990年代以来、上述のヘルスプロモーションの理念を標榜する包括的健康教育のアプローチを指向し、これを積極的に展開してきた、フランス、イギリスを中心としたEU諸国等の具体的な政策と先進的な事例の検討を通して、21世紀の学校教育の新しい展開と課題を明らかにすることが可能だと考えた。そこで、この学校実践と政策レベルとの連携に注目し、学校基盤のカリキュラム開発と実践を調査することとした。具体的な取組は以下のように構想した。

a) 1990年代以降のEU諸国等での包括的健康教育の取組の背景と過程を整理する。

b) 2000年以降のEU諸国等の包括的健康教育の政策動向とその枠組（国レベル・州などの地方レベルの学校カリキュラムの方針）を明らかにし、カリキュラムと教育方法の見地から各国の政策と実践の特性を析出して類型化を試みる。この調査方法としては、文献資料調査を基礎に、関係機関(者)への聞き取り・観察を主とする海外フィールド調査を実施する。

c) 上記の海外フィールド調査及び文献資料調査をもとにカリキュラム比較の国別調査結果をまとめて報告書（カリキュラム比較一覧表・解説・年表を含む）を作成する。

d) 政策を先導した、学校やコミュニティレベルの実験的・先導的取組例を調査し、地域性に照らして有効性を分析・評価する。

e) フィールド調査及び文献調査により、良い実践例を多数収集する。それらをカリキュラム・教育方法の観点から標本化して学校・学級等の教育環境、及び地域・親などに与えた影響を明らかにし、その有効性の評価を行う。

国別調査のレベルでは、学校における健康教育への取組の歴史や近年の政策動向を明らかにし、実践例の調査にも取り組んだので、上記a)、b)、c)については、おおむね所期の目標を達成できたと言える。結果は、最終報告書の他、学会発表や紀要等の論文記事にて発表した。しかし、d)の実験的・先導的実践例の分析・評価も含め、e)の良い実践例の収集については、興味深い実践例の調査を収集することはできたが、「良い実践例」として標本化し、分析・評価を行うに十分な量の事

例収集に至る調査とはなっていない。

一方、当初の研究計画に含めていなかった「学校におけるヘルスプロモーション」の国際的なネットワーク形成の動きや、日本の学校における健康教育の展開まで広げて、包括的健康教育カリキュラムの研究を行うことができたのは、今回取組の大きな成果である。ヘルスプロモーションの理念は、WHO のオタワ憲章を契機として世界的な潮流となつて広まっており、日本も含めて学校におけるヘルスプロモーション推進の国際的なネットワークの力を見逃すことはできない。

4. 研究成果

(1) 最終報告書の構成

平成 26 年度から平成 29 年度までに行われた研究の成果は、各国調査のデータとその比較分析結果として、最終報告書（『EU 諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの研究-地域と協働する学校-』、2017 年 10 月刊行）に収載した。報告書は、第 1 部で、「『学校におけるヘルスプロモーション』の世界的ネットワーク形成」と「健康教育カリキュラムの分析と学校基盤の包括的アプローチの実践的課題」という 2 編の論文が「学校におけるヘルスプロモーション」に関する調査を総論的に述べる。続いて、第 2 部でその考察のもととなった「EU 諸国等における学校基盤の『包括的健康教育』の展開」に関する各国論文をまとめた。最終的に検討した国・地域は、イギリス、フランス、ドイツ、カナダ・オンタリオ州とカナダ・ケベック州、オランダ、スイス・ヴォー州である。また、第 3 部に日本の問題を取りあげた。「日本の学校教育における健康教育の展開」「日本の学校保健と倫理～学校におけるヘルスプロモーション推進についての倫理的考察～」「子供の貧困等、新たなリスクと学校を基盤とした連携・協働～『チームとしての学校』の射程～」「日本の学校保健の開発途上国における展開～途上国での学校保健の普及における日本の支援の功績と今後の可能性～」の 4 本である。

(2) 成果と課題

本研究を構想するにあたって、想定された意義は、次の 2 点であった。

近代学校教育制度では、学校における保健活動に公衆衛生上の重要な位置付けを与えてきたが、それは教育とは区別された活動であった。しかし、今日の学校における「教育」と「健康」の新たな全体的アプローチは、この二つの領域を統合する学校教育の新展開である。それをカリキュラムと教育方法の次元で国際比較する本研究の意図は、研究としても教育領域と健康領域を統合的にとらえる視点が新しい。

今日、子どもたちの心身の健康問題は世界共通である。グローバル化の下、多様な価値観の混在を前に学校教育のイノベーションは急務であり、その学問的・実践的資源

としての活用が期待される。EU 諸国等の多様な良い実践例を収集し具体的に検討することを通して、その健康格差を内在する「隠れたカリキュラム」を可視化することによって客観的な認知と行動変容を促す介入的方法（mediation）としての具体的手法と、その教育効果を解明することが期待される。

本研究の結果をこの 2 点に照らしてみると次のように結論づけることができる。

まず 1) についてであるが、「学校におけるヘルスプロモーション」という理念は、世界的に、今日の学校における「教育」と「健康」の二つの領域を統合する新たな全体的アプローチという学校教育の新展開となっていることを確認することができた。たとえば、最終報告書所収の青木論文が明らかにしているように、ヘルシー・セッティングのアプローチをとる世界的ネットワークの形成が 1980 年代に端を発し、今日の大きなうねりを作り出している。それは、各国の調査結果においても検証された。また、各国のカリキュラム比較を総括的に論じた吉田論文は、「子どもたちだけではなく成人をも対象とする健康教育あるいは健康施策は学校を基盤としつつも、学校での取り組みのみには限定されない」という側面に言及し、包括的アプローチには国・地域による違いがあることを明らかにした。

つぎに 2) についてであるが、具体的に教育政策と教育実践に資する資源を解明する目的は、カリキュラム比較という形で一定の成果を上げることができたと言えよう。研究開始時には、1) 国のカリキュラムの基準・実施方針、2) 環境整備（体制、人的・物的資源）、3) 指導者養成・研修、4) 学校保健委員会の設置などの地域との連携、5) 親との関係や親教育、という観点から分析するとしていたが、調査の進展により、カリキュラム比較の分析枠組みが再考され、1) 教育課程上の位置づけ、2) 「健康教育」の分野・領域、3) 「健康教育」における教科横断性、4) 「健康教育」に関わる学校内スタッフ、5) 学校外の関係機関・地域との協働という五つの視点に収斂された。各国の報告はこの視点を軸に整理された。

そして、「五つの視点からみた七カ国の健康教育カリキュラムの比較分析表」が作成され、1) 「教科」中心アプローチ、2) 「テーマ型 領域横断型」アプローチ、3) 「コンピテンシー」志向アプローチ、4) 「学校中心」アプローチ、5) 「地域連携」アプローチ、6) 「子ども」中心アプローチという「六つのアプローチのマトリックス分析表」によって整理された。こうして各国の政策の特質がある程度明確にされたことは、本研究の成果である。

また、世界的な共通課題である、子どもの貧困問題に内在している健康格差に向き合う各国の政策や実践は、それぞれの国の記述に示されている。そこでは、その政策が、研究対象とした国・地域では、子どもの学業成

功とウェルビーイングの実現という同じ潮流にあることも確認された。

今後の課題については、最終報告書所収の吉田論文が明快に論じている。本論文が健康教育カリキュラムの構想について、「重要なことは、学校内外のスタッフ・機関の協働のもとでどのような包括的なアプローチを描くことができるかである」と指摘しているように、「学校におけるヘルスプロモーション」は、ヘルシー・セッティングという概念に基づいて、学校という場や子ども期・青年期のみに関わり込むことのないカリキュラム構想の模索を導くことになる。本研究で作成した「六つのアプローチのマトリックス分析表」の結果は、さらに一歩踏み込んで学校と地域が連携・協働するカリキュラムのあり方を検討する必要性を含意するものであった。すなわち、学校と地域が対等につながり、しかも主役は子どもだけではなく、そこに関わるすべての存在、大人も含まれるのではないか、そうならば「学校におけるヘルスプロモーション」は空間的にも時間的にも新たなカリキュラム概念を導くことになるだろうと述べている。

この点について、2016 - 17 年度にフランスで導入されたばかりの「健康の学習道筋 (PES)」という施策が新たな方向性を示唆しており、注目すべきものである。これは、カリキュラムの構造に個人別の視点を組み込み、各個人の学びがどのように構築されるのかを可視化する、個別・時系列的次元を導入するものである。今後、このような新たな展望を見通し、追究していくことが求められよう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

堀家香織、赤星まゆみ、地域と学校の協働による子どものヘルスプロモーションと健康教育に関する考察～スイス・ヴォー州の事例を通して～、西九州大学子ども学部紀要、第 9 号、査読有、2018、7-18

松本大輔、日本の学校教育における健康教育の現状と展望 - 学習指導要領によるカリキュラムの視点から -、西九州大学子ども学部紀要、第 9 号、査読有、2018、27-36

帖佐尚人、キャラクターエデュケーションと性教育：英語圏におけるその議論展開と道徳教育及び健康教育への視座、鹿児島国際大学福祉社会学部論集、第 36-1 号、査読無、2017、33-42

吉田成章、赤星まゆみ、山本ベバリーアン、高橋洋行、EU 諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向、広島大学大学院教育学研究科紀要第三部(教育人間科学関連領域)、第 66 号、査読無、2017、31-40、<http://doi.org/10.15027/>

44804

石黒万里子、英国における乳幼児期の教育とケア(ECEC)の転型論 - OECD 報告書「人生の始まりこそ力強く(Starting Strong)」を手がかりに、日英教育研究フォーラム、第 21 号、査読有、2017、71-84、オープンアクセス：<http://www.juef.sakura.ne.jp>

赤星まゆみ、高橋洋行、フランスにおける子ども・若者の幸福と健康に関する政策動向 2016 年 11 月のアクションプランを中心に、フランス教育学会紀要、第 29 巻、査読無、2017、65-78

吉田成章、ドイツにおける健康教育実践に関する一考察、中国四国教育学会編教育学研究紀要(CD-ROM 版) 第 62 巻、査読無、2017、465-470

大庭三枝、子どもの全体的発達を支える保育と就学前教育の接続 - カナダ・ケベック州の取り組み -、保育と保健(日本保育保健学会誌) 第 23 巻 1 号、査読無、2017、141-142

吉田成章、ドイツにおける健康教育カリキュラムに関する一考察、中国四国教育学会編教育学研究紀要(CD-ROM 版) 第 61 巻、査読無、2016、78-83

友川幸、世界の子どもの貧困と健康 貧困が生み出す格差の健康影響とその対策、公衆衛生、第 80 巻 7 号、査読無、2016、519-512

高橋洋行、幼児教育課程から始まる能動的市民の育成に関する教育内容とカリキュラム-領域「共に生きる」から「生徒になる」までの価値教育の変遷を通して-、フランス教育学会紀要、第 28 巻、査読無、2016、29-40

赤星まゆみ、フランスにおける学校基盤の包括的健康教育政策の動向-保健衛生からヘルスプロモーションへの転換-、日仏女性研究学会(日仏女性資料センター)編女性空間、第 33 号、査読有、2016、45-56

[学会発表](計 11 件)

赤星まゆみ、高橋洋行、フランスにおける「健康の学習道筋(PES)」と学習指導要領(programmes)、日仏教育学会 2017 年度研究大会、2017

赤星まゆみ、堀家香織、地域と学校の協働による子どものヘルスプロモーションと健康教育に関する考察～スイス・ヴォー州の事例を通して～、日本比較教育学会第 53 回大会、2017

青木研作、石黒万里子、イギリスの学校における健康教育の展開 - PSHE の伝統とヘルシースクールアプローチ、日英教育学会第 26 回大会、2017

宮古紀宏、リスク要因と関係機関による対応(子どものサインを見逃さないために)、平成 28 年度児童虐待防止専門化講座、2017

Beverley Anne Yamamoto, "Promoting

Health, Promoting School Success: An Exploration of Healthy Schools Policy in Four Cultural Settings in the EU and Canada”, 3rd International Sociology Association (ISA) Forum, 2016

吉田成章、ドイツにおける健康教育実践に関する一考察、中国四国教育学会第68回大会、2016

帖佐尚人、公衆衛生倫理とパターンリズム 英語圏におけるその議論展開と道徳教育及び健康教育への視座、日本教育学会第75回大会、2016

大庭三枝、子どもの全体的発達を支える保育と就学前教育の接続 - カナダ・ケベック州の取り組み -、第22回日本保育保健学会、2016

石黒万里子、英国の就学前教育におけるヘルスプロモーションの展開 - EYFS 改訂の動向を手がかりに、日英教育学会第25回大会、2016

赤星まゆみ、山本ベバリーアン、吉田成章、高橋洋行、EU諸国等における学校基盤の包括的健康教育カリキュラムの動向、日本カリキュラム学会第27回大会、2016

赤星まゆみ、フランスにおける学校基盤の健康教育政策の動向、日仏教育学会2014年度研究大会、2014

〔図書〕(計3件)

リヒテルズ直子、日本評論社、0歳からはじまるオランダの性教育、2018、224

青木研作「新しいタイプの公営学校」、石黒万里子「就学前教育」(トピック02)ペアレントクラシー、東信堂、日英教育学会編、英国の教育、2017、328(93-102、38、175-182)

朝倉隆司「教育支援と健康支援のつながりをふまえた包括的支援に向けて」、書肆クラルテ、松田恵示・大澤克美・加瀬進編、教育支援とチームアプローチ 社会と協働する学校と子ども支援、2016、294(101-110)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

赤星 まゆみ (AKAHOSHI, Mayumi)
西九州大学・子ども学部・教授
研究者番号：50150975

(2) 研究分担者

ヤマモト ベバリーアン (YAMAMOTO, Beverley Anne)
大阪大学・大学院人間科学研究科・教授
研究者番号：10432436

吉田 成章 (YOSHIDA, Nariakira)
広島大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：70514313

石黒 万里子 (ISHIGURO, Mariko)
東京成徳大学・子ども学部・准教授
研究者番号：90510595

青木 研作 (AOKI, Kensaku)
東京成徳大学・子ども学部・准教授
研究者番号：20434251

大庭 三枝 (OBA, Mie)
福山市立大学・教育学部・准教授
研究者番号：50413539

松本 大輔 (MATSUMOTO, Daisuke)
西九州大学・子ども学部・准教授
研究者番号：20624498

藤岡 美香子 (FUJIOKA, Mikako)
東海大学・経営学部・講師
研究者番号：10350240

高橋 洋行 (TAKAHASHI, Yoko)
松山東雲短期大学・保育科・講師
研究者番号：90593616

宮古 紀宏 (MIYAKO, Norihiro)
国立教育政策研究所・生徒指導進路指導研究センター・主任研究官
研究者番号：60549129

帖佐 尚人 (CHOSA, Naoto)
鹿児島国際大学・福祉社会学部・講師
研究者番号：00631938

(3) 連携研究者

朝倉 隆司 (ASAKURA, Takashi)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：00183731

友川 幸 (TOMOKAWA, Sachi)
信州大学・学術研究院教育学系・准教授
研究者番号：30551733

(4) 研究協力者

中野 茂 (NAKANO, Shigeru)
早稲田大学高等学院・教諭

リヒテルズ 直子 (RICHTERS, Naoko)
在オランダ・教育研究者

堀家 香織 (HORIKE, Kaori)
在アメリカ・教育方法研究者

三宅 公洋 (MIYAKE, Kimihiro)
信州大学・教育学部・研究員